地域安全マップづくりの留意点

子どもの犯罪被害防止対策プロジェクトチームホームページ
～地域安全マップをつくろう！～（抜粋）　http://www.pref.hiroshima.jp/cspt/

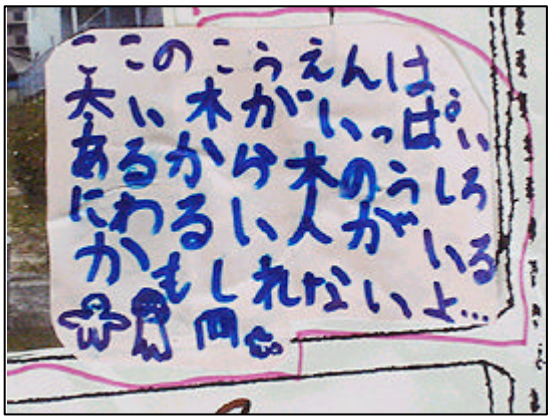
※ホームページには，犯罪が起こりやすい場所はこんなところ，作製の効果，作製の流れなども掲載していますので，マップづくりの際の参考にしてください。

地域安全マップとは？

犯罪が起こりやすい場所を地図にまとめたものです。
犯罪が起こりやすい場所は「入りやすい（領域性が低い）場所」と「見えにくい（監視性が低い）場所」なので，そのような場所を洗い出したものが地域安全マップです。

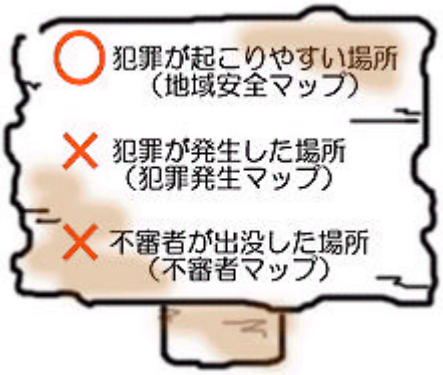
近所の危険箇所を自分の目で確認したり，地域住民へのインタビュー等，地域安全マップ作製を通して，子どもは自ら危険を回避する能力を身につけ地域との関わりをもつことができます。

また大人は，地域安全マップを作製することで，防犯環境の改善などの取組みにつなげていくことができます。



地域安全マップづくりの留意点

地域安全マップは，犯罪が起こりやすい場所を表示した地図であって，実際に犯罪が発生した場所を表示した地図（犯罪発生マップ）ではなく，また，不審者が出没した場所を表示した地図（不審者マップ）でもありません。



また，大人が地域安全マップを作製して，それを子どもに渡すだけでは，子どもの被害防止能力は，高まりません。自らが地域に出て調査し，マップにまとめ，発表するという一連のマップづくりによって，子どもの能力を高めることができます。

子どもや地域住民は，地域安全マップづくりを経験することで，危険な場所を避けたり，注意力を向上させたりする必要性を強く感じるようになるのです。

子どもや地域住民自身が試行錯誤しながら相互に協力して作り上げる過程こそが，様々な効果を生むのです。

■失敗例＜1＞不審者マップ

「変な人がいた」「犯罪者みたいな人がウロウロしていた」などと，不審者が出没した場所を表示した不審者マップは，被害防止能力の向上に効果的でないばかりか，有害でさえあります。不審者か否かの判断が主観的であるため，特定の人や集団を不審者扱いにした差別的な地図になる危険性があるからです。

子どもに，単純に「不審者に注意しましょう」と指導することは，「進んで挨拶をしましょう」とか「困っている人を助けましょう」などと指導していることと矛盾し，子どもを混乱させてしまいます。

子どもに，「犯罪が起こりやすい場所では十分警戒し，犯罪が起こりにくい場所においては積極的に挨拶をしましょう」と指導すれば混乱は回避できます。

■失敗例＜2＞犯罪発生マップ

犯罪発生場所を単純にそのまま地図に書き込むだけでは，危険な場所を見極める能力は育ちません。さらに，犯罪発生場所に執着すると，被害体験を聞き出すことに躍起となり，被害者のトラウマ（心の傷）を深める危険性もあるので，特に被害に遭った子どもの心のケアには十分な配慮が必要です。

犯罪が起きた場所が明らかにされている場合でも，それは，あくまでも，犯罪が起こりやすい場所を洗い出すための基礎資料と考えるべきです。

■失敗例＜3＞日ごろ不安に感じている場所を表示した地図

日ごろ不安に感じている場所では，注意しているはずなので，その場所を単純に地図に落とすだけでは，被害防止のための意識と能力の向上は期待できません。

犯罪が起こりやすい場所の判断基準（「入りやすい」（領域性が低い）場所と「見えにくい」（監視性が低い）場所という基準）に照らして，場所の危険性を判断し，地域に潜む危険性を発見するという「気づき」の過程こそが，被害防止にとって最も重要なのです。

※　地域安全マップは作製する過程が重要です。大人が作製し，配布することでは，子どもたちに被害防止のための意識と能力の向上は期待できません。

地域安全マップづくりの事：準備

○地域安全マップづくりを行う前に，指導者等が事前に準備しておくことをまとめました。

○次のような点に留意しておくと，よりスムーズに取り組めるとともに，子どもたちがより，犯罪が起こりやすい場所を理解することができます。

指導者の事前学習

○地域安全マップづくりを行う場合，まず指導者になる人が，「犯罪が起こりやすい場所」はどんな場所かしっかり理解することが必要です。
「犯罪が起こりやすい場所」＝「入りやすい（領域性が低い）場所」「見えにくい（監視性が低い）場所」
○指導者がしっかり理解していないと，子どもたちに「犯罪が起こりやすい場所」を正しく理解させることは難しくなります。
○地域安全マップづくりを行う前に，一度地域を歩いて，犯罪が起こりやすい場所を確認し，なぜ犯罪が起こりやすい場所なのか，どうして安全な場所なのか理由を考えてみることも大切です。

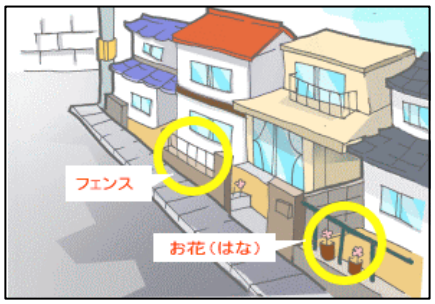
実施のための事前準備

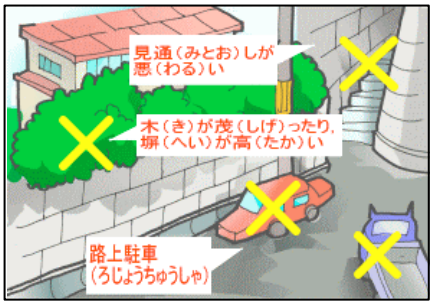
○フィールドワーク（危険箇所調査）で，子どもたちと実際に歩く地域の選定
・実際に歩く場所は，１時間から１時間半で帰ってこられる地域が適切です。
・通学路に限ったり，通学路全てを歩く必要はありません。どういった場所が，犯罪が起こりやすい場所なのか，子どもたちが実際に自分で歩いて，自分で見ることで理解することができます。
・子どもたちが利用する公園，学校，商店街，神社等ポイントとなる施設等がある地域を選定することで，より子どもたちが犯罪が起こりやすい場所はどんなところか理解することができます。
○班編成
・フィールドワーク，マップ作製時のグループ分けを事前に行うことでスムーズにマップづくりに取り組めます。
・グループは，５，６人が適切です。余り人数が増えると，手持ち無沙汰で遊ぶ子どももでてきます。
○地域安全マップづくりの準備物
フィールドワーク時，マップ作製時においては，次のものを準備しておく必要があります。
フィールドワーク時
・地図（持ち歩き用），カメラ，記録用紙，筆記用具，バインダー，腕章
マップ作製時
・模造紙，カラーマジック（クレヨン，絵の具など），色紙，コメント用紙（付箋等），のり，はさみ，鉛筆，消しゴム，両面テープ等

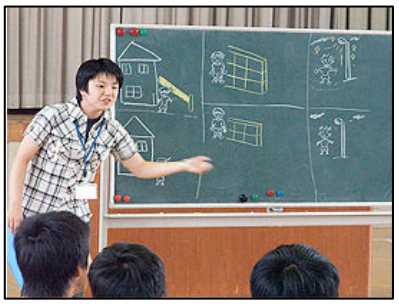
子どもたちへの事前学習

○事前学習において，子どもたちに犯罪が起こりやすい場所の条件をしっかり理解させてください。
入りやすいところ　犯罪者があやしまれずに近づくことができ，犯行後すぐに逃げることができる。

見えにくいところ　犯罪者がかくれていても分からないし，悪いことをしても見つからない。
○「かくれんぼする時に何処にかくれる？」「秘密基地はどんなところにつくる？」など，子どもたちがわかりやすい表現で例示することも大切です。
○また，イラストを活用したり，クイズ形式による設問により
「危険な場所はどっち？」「どうして危険なの？」など，子どもたちに考え，発言させる事前学習法も有効です。（※下のイラストは，プロジェクトチームホームページからダウンロードできます。）







フィールドワークにおけるポイント

○　地域安全マップづくりにおいてフィールドワーク（危険箇所調査）を行う際の犯罪が起こりやすい場所を発見するポイントをまとめました。
○　フィールドワークを行う際，こういった視点を持って地域を歩いて見ることが大切です。

キーワード　＝「入りやすい場所，見えにくい場所」＝「犯罪が起こりやすい場所」

道路　○道路は，だれでも入りやすい場所です。

○左側に樹木が茂り，見えにくい場所となっています。
○路上駐車を許している場所は，地域が無関心な場所。何があっても無関心な人が多く，見えにくい場所と言えます。
○車の間に連れこまれたり，車の中から子どもを狙っていることも考えられます。

○ガードレールを設けることにより，車道と歩道が区分され，入りにくい場所となっています。
○車で接近してきて連れこもうとしても，ガードレールが物理的な障害となっています。
○夜になると外灯がなく，見えにくい場所となるかもしれません。

○両側を高い塀で囲まれ，樹木が茂り見えにくい場所となっています。
○狭くて人通りが少なく見えにくい場所です。
○夜になると外灯もなく，より見えにくい場所となります。
○近くに幹線道路があれば，さらに犯罪者が入りやすい場所となります。

○高い壁と塀に囲まれており，周囲からは見えにくい場所になっています。
○夜になると外灯もなく，より見えにくい場所となります。

公園　○公園は，だれでも自由に出入りできる入りやすい場所です。

○出入口に車止めがあるので入りにくい場所です。
○１箇所の出入口であれば，入りにくい場所です。
○しかし他に出入口があれば入りやすい場所になります。
○盛土や樹木で視線をさえぎっており，中で遊ぶ子どもが見えにくい場所となっています。
○夜になれば，外灯もなくさらに見えにくい場所となっています。

○出入口が１箇所しかなく入りにくい場所です。
○周囲から公園の中を見ることができ，見えやすい場所となっています。
○冬になり樹木の葉が落ちれば，より見えやすい場所となるかもしれません。

○周囲に高い樹木が茂り見えにくい場所となっています。
○ゴミが放置されている場所は，地域の人が無関心な場所です。
○何があっても無関心な人が多く見えにくい場所と言えます。

○出入口が数箇所あり入りやすい場所です。
○周囲がフェンスで囲まれており，周囲からは見えやすい場所となっています。
○木が伸びて，葉が茂ってくれば，見えにくい場所になります。

駐車場

○駐車場は，多くの場合，自由に出入できる入りやすい場所です。
○暗くなり，外灯などなければ見えにくい場所です。

○出入口にチェーンがしてあったり，門扉があれば入りにくい場所です。
○周囲が高いブロック塀で囲まれ家の窓からも中が見えにくい場所となっています。
○車の陰や車の中に連れこまれたりすることも考えられます。

○アパートのベランダが駐車場に面していたり，周囲に壁等がないため，周りからは見えやすい場所となっています。

○出入口にチェーンがしてあったり，門扉があれば入りにくい場所です。
○周囲が高いブロック塀で囲まれ，駐車場の中が見えにくい場所になっています。
○柱の陰にだれかが隠れているかもしれないし，駐輪場の奥に連れ込まれることも考えられます。

○最近多くなっているマンションなどの１階駐車場もだれでも自由に入れ，入ってしまえば外からは見えにくい場所です。
○車の陰や車の中に連れ込まれたりすることも考えられます。

その他　○次のような場所も注意して歩いてみましょう。

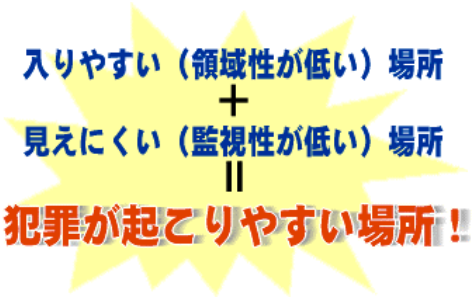
○トイレはだれでも利用できる入りやすい場所です。
○中に入れば外からは見えにくい場所となるため，中に連れ込まれることも考えられます。
○樹木等が茂り，周囲からさらに見えにくい場所となっています。

○地下道はだれでも利用できる入りやすい場所です。
○地下道の中に入ってしまえば，外からは見えにくい場所となります。
○防犯カメラ等がない限り，中で何があっても外からは見ることができません。
○落書きも放置されており，地域の人が無関心な場所と言え，より見えにくい場所となっています。

○空家だから危険な場所ではありません。
○玄関や窓に施錠がされ，だれでも自由に出入りできない状態であれば，入りにくい場所です。
○施錠等がされていない場合，自由に入ることができ，入ってしまえば，外から見えにくい場所になります。
○中に連れ込まれたりすることも考えられます。

○自動販売機の裏や家と家の隙間なども，入りやすくて見えにくい場所です。
○落書きが放置されている場所は，地域の人が無関心な場所であり，見えにくい場所です。
○間に連れ込まれたりすることも考えられます。

＜指導の際のポイント＞



○犯罪が起こりやすい場所は，「入りやすい（領域性が低い）場所」「見えにくい（監視性が低い）」場所です。

○場所によっては，「入りやすいけれども，見えやすい」「入りにくいけれども，見えにくい」など，領域性と監視性の一方のみが「犯罪が起こりやすい場所」に該当する場合もあります。

○また，この場所は安全だと思った場合も，なぜ安全と思ったか，「犯罪が起こりにくい場所（安全）」＝「入りにくい（領域性が高い）場所」＋「見えやすい（監視性が高い）場所」の視点をもって考えて見てください。

○フィールドワーク（危険箇所調査）を行った時点だけでなく，「もし夜になったらどうだろうか？」「調査の時期（季節）が違ったらどうだろうか？」など，いろいろな視点をもって地域を歩いてみることも必要です。

○フィールドワークにおいては，子どもたちに発見させることが大切です。
大人が「ここは危険だよ。」と教えるのでは，子どもたちの被害防止能力は育ちません。
子どもたちが見過ごしそうになったら，「ここは犯罪が起こりやすい場所？」など，ヒントを与えるぐらいのスタンスで望むことが大切です。
また，大人が見過ごしそうな場所を逆に子どもたちが発見することもあります。

○入りやすくて見えにくい場所があれば実際にロールプレイしてみることも大切です。
高い塀の後や家と家の間など，実際に子どもたちを入らせてみると，その場所で何があっても外からは見えにくいことが実体験として理解できます。

地域安全マップ作製のポイント

効果的に「犯罪が起こりやすい場所」について学ぶことができる地域安全マップを作製するためのポイントです。

■犯罪被害の防止がテーマ

交通安全や防災をテーマに混ぜてしまうと，子どもの視点は犯罪被害から交通事故や災害被害に向いてしまいます。

犯罪は犯罪者の意志に基づき行われるもの。過失や災害などで発生する交通事故や災害とは異なるものです。

犯罪にテーマを絞ったマップづくりが，子どもの犯罪被害防止能力を育てることにつながります。

■子どもが作製することが大切

地域安全マップは，子どもが自ら作製することが大切です。子どもにフィールドワークを経験させることで，危険な場所を避けたり，注意力を向上させることができます。大人が作製し配布するだけでは，子どもの犯罪被害防止能力は育ちません。

■「犯罪が起こりやすい場所」を記載

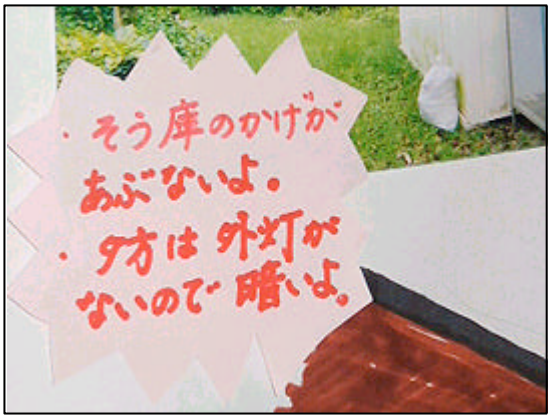
地域安全マップは，「犯罪が起こりやすい場所」を記載するものです。

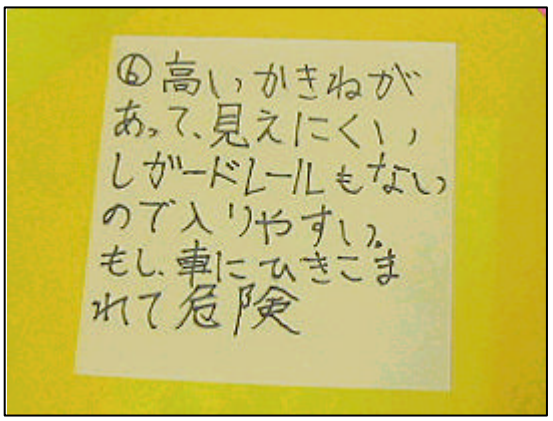
「不審者が出た場所」や「犯罪が発生した場所」など過去の事実をマップに記載したのでは，本当にその場所が危ない場所なのか，あるいは将来犯罪が置きやすい場所なのかを見極めることができません。

「犯罪が起こりやすい場所」とは，「領域性が低い（入りやすい）場所」と「監視性が低い（見えにくい）場所」の 2 つのポイントが揃った場所です。

※危険な場所とは，将来犯罪が起こる可能性があるかという視点で判断することが重要です。

過去に「不審者が出た場所」や「犯罪が発生した場所」についても，「入りやすくて，見えにくい」＝「犯罪が起こりやすい場所」の視点で見ることも必要です。





■「安全な場所」を記載

「犯罪が起こりやすい場所」だけでなく，領域性や監視性が高い場所，あるいは子ども１１０番の家など，地域で子どもを守ってくれる安全な場所も調査して記載しましょう。

「安全な場所」を見つけることで，地域に自分たちを守ってくれる大人がいることにも気付き，地域への愛着心も育ちます。

■コメントをきちんと記載

「犯罪が起こりやすい場所」や「安全な場所」は，その理由を考えて，できるだけ具体的にコメントを記載しましょう。フィールドワークで体験した「犯罪が起こりやすい場所」や「安全な場所」について，その理由を具体的にコメントすることで，これらの場所を見極める力が育ちます。

■インタビューの内容を記載

地域の人の防犯への関心の高さを知るため，積極的にインタビューを行い，その内容をわかりやすく記載しましょう。

■分かりやすくて子どもが興味を引く表現

・地域安全マップは「犯罪が起こりやすい場所」などが，一目見て分かりやすいように作製しましょう。
・イラストなどを用いて，子どもが興味を引くように作製しましょう。
・地域安全マップのレイアウト，色彩，イラスト，写真の貼り方，コメントの表現などに工夫を凝らしましょう。

■プライバシーに配慮

人，家，車などが特定されないように配慮して，プライバシーを侵害しないようにしましょう。（家の表札や車のナンバーが写真に写っている場合は，マジックで塗りつぶすなどの配慮が必要です。）

■地域ぐるみの防犯対策につなげる

把握した「犯罪が起こりやすい場所」は，地域安全マップに作製するだけではなく，今後の具体的な取り組みにつなげていきましょう。

＜取組み例＞
・「犯罪が起こりやすい場所」で重点的な防犯パトロール
・草木が茂り，監視性が悪くなっている公園などの改善
・落書き，ゴミ，自転車などが放置してある無関心な場所の清掃　等

参考資料：地域安全マップ作製指導マニュアル
東京都緊急治安対策本部（安全・安心まちづくり担当）発行
立正大学文学部社会学科（犯罪社会学）教授：小宮信夫　監修

地域まるごと
子ども見守り宣言！

地域安全マップづくりチェック表

○　各学校，地域において，地域安全マップづくりに取り組んだ際，下記の内容について確認してみましょう。
○　チェックできなかった項目について，改善していくことでより素晴らしいマップになるとともに，マップづくりで期待されている子ども自身の被害防止能力がより育成されることが期待できます。

項　　目	チェック
■　犯罪被害の防止がテーマ 交通安全や防災をテーマに混ぜてしまうと，子どもの視点は犯罪被害から交通事故や災害被害に向いてしまいます。 犯罪にテーマを絞ったマップになっていますか。	□
■　子どもたちが作製 子どもがフィールドワークを経験し，子ども自ら作製することが大切です。 大人が作製し配布するマップになっていませんか。	□
■　「犯罪が起こりやすい場所」を記載 地域安全マップは，「犯罪が起こりやすい場所」を記載するものです。 「不審者が出た場所」「犯罪が発生した場所」など，過去の事実を記載したものがありませんか。	□
■　「安全な場所」を記載 「犯罪が起こりやすい場所」だけでなく，子ども１１０番の家など，地域で子どもを守ってくれる安全な場所も記載されていますか。	□
■　コメントをきちんと記載 「犯罪が起こりやすい場所」や「安全な場所」は，その理由がコメントとしてきちんと記載されていますか。	□
■　インタビューの内容を記載 地域の人の防犯意識を高めるためや，地域の人とのコミュニケーションを図る意味でも積極的に地域の人へインタビューをしていますか。	□
■　分かりやすくて子どもが興味を引く表現 「犯罪が起こりやすい場所」などが，一目見て分かりやすくなっていますか。 レイアウト，色彩，イラスト，写真，コメントの表現など工夫していますか。	□
■　プライバシーに配慮 人，家，車が特定されないよう，プライバシーに配慮していますか。 家の表札や車のナンバーが写真に写っている場合は，マジックなどで塗りつぶすなどしていますか。	□
■　地域ぐるみの防犯対策 把握した「犯罪が起こりやすい場所」は，地域安全マップに作製するだけでなく，今後の具体的な取組みにつながっていますか。	□